

日本ヘンプ協会からの1回目の回答

2025/01/19 0:23 頃

一般社団法人 日本化粧品協会

ご担当者様

この度は、日本ヘンプ協会へお問い合わせをいただき、誠にありがとうございます。

早速ではございますが、ご質問への回答をさせていただきます。

- ① 主要な数十の界面活性剤で実験を行いました。その結果は未発表ですが、時期が来ましたら学術雑誌やメディア等にて報告をさせて頂く予定です。ただし、新規性が損なわれると論文として受理がされなくなってしまうため、論文として受理・掲載されるまでは具体的データは公表できませんことをご了承ください。
- ② ラウリル硫酸ナトリウム等を用いた実験データは、昭和大学の大学院生が昨年に発表した学内発表であり、胃内（低 pH）での短時間における変換可能性を検討したのですが、その結果は未発表です。こちらも時期が来ましたら学術雑誌やメディアにて報告をさせていただく予定です。その後に CBD 製品を加速試験に用いた状況での CBD→THC 変換速度研究を行いました。アニオン系以外の界面活性剤でも変換は起きますが、その変換速度は異なります。その他、有機酸（プロトン供給物質）の有無とその種類によっても大きく異なります。
- ③ アニオン活性剤存在下での CBD→THC 変換反応につきましては、pH はもちろんのこと、同じ pH でも、有機酸の有無とその種類によって大きく異なります。

上記の内容にてご回答とさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。